

江口章子 整詩人。明治二十一年四月一日大分縣西國東郡香々地^{かしち}村生れ、昭和二十一年十一月二十九日没（八八—一九四）。筆名中村章子、北原章子。明治三十七年大分縣立第一高等女學校入學。三十九年辯護士と結婚し、大正四年離婚。翌年北原白秋と結婚すると、のち池田林儀と出奔して九年に離婚。歸郷してボプラ學園を創設し、子弟の教育に當る。また地元の雑誌『郷土文藝』に詩歌、文章を執筆し、童謡欄の選者も務めた。十年京都大徳寺の芳春院に入り、翌年歸つて學園を再開。更に京へ出て郡是製絲會社附屬女子校師範科に入るも、女工哀史を自の親り^まびして脱出。十二年一休寺住職林山大空と結婚、のち出て聚光院の中村戒仙と結婚（昭和五年）。この間、詩文集『女人山居』（昭和二年五月十日交蘭社）、次で詩集『追分の心』（昭和九年九月一日海圖社）を出版。

十二年腦出血で倒れ、翌年戒仙と離婚。十四年水町京子主宰誌『遠つびと』に「巡禮記」を書きおぼどこゝろだが、十七年京都同和園（養老院）に入り、戦後郷里で狂死。原田種夫著『きすらいの歌』（昭和四十七年十一月十日新潮社）は、その生涯を述ぶ。